

出題 螢雪ゼミナール

長良北校・築穂拓真



国語を様々な側面からみて、日本語の面白さや深さを知ってもらえればと思います。

## 問題【国語】

次の和歌について、傍線部の活用形を答えましょう。

雲の上は ありし昔に 変はらねど 見し玉垂れの うちや恋しき

## 豆知識 雑学コラム

## 係り結びの法則

今回は「係り結び」について見ていきましょう。普通、日本語の文章では、文の終わり（文末）は終止形になりますよね。しかし、古文では例外として、「ぞ」や「こそ」のような係助詞が文中にある時に、文末を終止形以外の連体形や已然形にするという決まりがあり、この決まりを「係り結びの法則」といいます。具体的には下の表の通りです。

今回の問題では「恋しき」の前に疑問

係助詞	文末の活用形	意味
ぞ・なむ	連体形	強調
や・か	連体形	疑問・反語
こそ	已然形	強調

を表す係助詞の「や」「か」があるため、連体形と判断できます。さて、今回の和歌には、以下のようなエピソードがついています。

昔、平治の乱という戦いの責任を問われ、都から遠い東国に流された藤原成範という人物がいました。成範が罪を許され、都に戻り、宮中に参内した時に、昔の恋人が成範を見つけ、この和歌を詠みました。

「雲の上」とは、「手の届かないぐらい身分の高い人たち」という意味から「宮中」を指し、「玉垂れ」は昔の恋人がいる部屋の仕切りのことです。

つまり、この歌は「宮中は東国に流される前のころ（昔）と変わっていませんが、あなたが昔出会った、玉垂れの中の人には恋しくありませんか。」という問いかけのラブレターというわけです。

平安時代は和歌でラブレターを書き、返事も和歌で答えなければなりません。成範が返事の和歌を書こうとすると、向かいから宿敵の平重盛がやってきます。

すぐにもその場から立ち去りたいと思っただ成範は和歌の「や」を「ぞ」にかえて、「雲の上は ありし昔に 変はらねど 見し玉垂れの うちぞ恋しき（宮中は東国に流される前のころ（昔）と変わっていませんが、私が昔出会った、玉垂れの中の人か恋しいのです）」と返事をしました。

係助詞の「ぞ」は上の表の通り「強調」を表しているため「あなた（昔の恋人）が恋しい」ことを、より強く伝える返事となっていています。この返事をもらった恋人は大変喜んだそうです。

このように係助詞は気持ちを伝える大切な表現として出てきます。読解するときには注意してみてくださいませう。

## 【解答】